

「互いの尊重と協働のもと、しなやかさをもち、高きに和す、存在感のある校長会」を目指して

佐賀県小中学校校長会

会 長 林 寛

今年度、本会の会長を務めさせていただきます。上峰町立上峰小学校 林寛でございます。

今回68年の歴史ある佐賀県小中学校校長会 会長の大役を仰せつかりました。微力ではございますが、石井博善 前会長の意を引き継ぎ、本会の目的を達成し、本県教育のさらなる振興・発展に向け、任を果たしてまいりたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、近年、情報化・グローバル化が加速的に進展し、将来の予測が困難な時代となっています。新しい技術や産業の発達、環境問題や自然災害の発生、国際情勢の不安定化などは、まさに予測困難な時代を象徴しており、一人一人が豊かで幸せな人生と社会の持続的な発展を実現するために、教育の果たす役割はますます大きくなっています。

そのような状況の中、私たち校長は、学校経営において、学力向上、いじめや不登校等の諸課題、特別支援教育の充実、GIGA スクール構想の推進、働き方改革などの課題解決に向けた取組を進めなければなりません。当面する課題や子どもたちの未来を見すえ、学校経営を行っていくことは、ものすごく大変なことです。私は、だからこそ、この佐賀県小中学校校長会の存在意義があると考えます。

このような状況を鑑み、今年度の佐賀県校長会のスローガンは、昨年度に引き続き「互いの尊重と協働のもと、しなやかさをもち、高きに和す、存在感のある校長会」としています。

校長という職は、大小さまざまな判断と決断の繰り返しです。最終判断を下すとき、どうしても孤独を感じる場面があります。その孤独に耐える覚悟は必要ですが、決して孤立してはならないと私は考えています。

だからこそ、各地区の校長会や県校長会において、校長同士が信頼関係のもとで情報を共有し、課題に向き合うことが、各学校の経営に大きな力をもたらします。これがスローガンに掲げた「互いの尊重と協働」の意味です。

また、「しなやかさ」とは、包容力のある柔軟なものの見方や捉え方、必要に応じて大胆に軌道修正する力を指します。子どもたちと学校にとっての最善を追求するために、私たちが持つべき姿勢を表しています。一方で、しなやかでありながらも、本質を見誤らず、信念に基づいて子どもたちと職員のために常に高みを目指す集団でありたい。その願いを込めた言葉が「高きに和す」です。そして、このような集団で、先を見通した判断力と実行力を私たちがもてるよう、各地区や県の校長会で議論し活動することで、「存在感のある校長会」を目指したいと思っております。

本年度、新しく39名の校長先生方を迎えた219名で、「互いの尊重と協働のもと、しなやかさをもち、高きに和す、存在感のある校長会」として、ともに教育課題に真摯に向き合い、前進していきたいと考えます。

みなさま1年間、どうぞよろしくお願いいたします。